



ICSCoE ReportはICSCoEの活動を皆様にご紹介する広報誌です。

## 産業サイバーセキュリティシンポジウム2021 ～サイバーセキュリティの強化・人材育成の重要性～を開催

### 中核人材育成プログラムの成果を発信

2021年5月、産業サイバーセキュリティセンターでは「中核人材育成プログラム」の修了者や第4期受講者がICSCoEでの学びや活躍を発信するシンポジウムをオンライン開催しました。当日は企業の経営者やセキュリティ責任者の方など約280名の方に聴講いただきました。

#### ■ セキュリティに詳しい人材を企業の中に抱えていかなければならない

IPA 富田理事長は、コロナ禍の中で産業界全体がITを駆使して事業を進める必要性に迫られている現状を踏まえ、各社のセキュリティの力の差で業績の差が生じてくると述べ、セキュリティに対する注意を継続すること、人材を育成することの重要性について語られました。

#### ■ 絶えず進化するサイバー攻撃の脅威から、日本の産業界を守る

産業サイバーセキュリティセンターの遠藤センター長は、国内外でのサイバー攻撃の事例を挙げ、重要インフラ事業者等において、制御システムに対するサイバー攻撃の対処能力の向上がますます重要な経営課題になっていると述べられました。また、安全なサイバー空間を作ることで価値創造をしていくことが日本の産業界にとって重要であると話されました。

#### ■ ぜひICSCoEをもっと使っていただきたい

経済産業省商務情報政策局サイバーセキュリティ課長の奥家敏和氏は、近年サイバー攻撃の脅威のレベルが格段に上がっており、セキュリ



ICSCoEへの期待を述べる奥家課長

ティ対策における経営層のリーダーシップの重要性や、サプライチェーン全体でセキュリティ対策を考えていく必要性が増していると話されました。そしてICSCoEを「日本の中でも特に制御系システムのセキュリティについてハイレベルな取り組みを行っている機関」であるとして、ICSCoEへの参加の意義を述べられました。



開会挨拶をするIPA富田理事長

#### 開催プログラム

- ▶ **開会挨拶**  
IPA理事長 富田 達夫
- ▶ **主催者挨拶**  
IPA産業サイバーセキュリティセンター長 遠藤 信博
- ▶ **基調講演**  
経済産業省  
商務情報政策局サイバーセキュリティ課長 奥家 敏和 氏
- ▶ **パネルディスカッション**  
ICSCoE 第4期 受講者
- ▶ **講演**  
ICSCoE 修了者
- ▶ **パネルディスカッション**  
ICSCoE 修了者
- ▶ **閉会挨拶**  
IPA理事 戸高 秀史

次ページではICSCoE受講者、修了者のパネルディスカッションの様子を紹介します



## 第4期 受講者パネルディスカッション

2021年6月末の修了を目前にして、第4期受講者の3名がパネルディスカッションに登壇し、実際に受講している中で日々感じることなどを紹介しました。



モデレータ  
東洋大学  
満永 拓邦先生

**満永先生** ICSCoEでは1年間、フルタイムで学んでもらっています。受講する中でどのようなことを感じるか聞かせてください。

**八木さん** 志を同じくする仲間が周りにたくさんいるのが良いと感じています。グループディスカッションをしたり、チームを組んで攻撃への対応を考えたり、仲間と一体感をもって取り組める機会が多くあります。

**中村さん** 年齢とか、派遣元の会社での役職とかの垣根がかなり低く、受講者同士でフラットな関係を築けることが



パネルディスカッションの様子

良いですね。様々なことを聞きあって、互いに吸収できています。

**玉田さん** 私はOT出身で、受講するまでITの知識がなかったので、ついていけるかなという不安がありました。実際にはITとOTの基礎知識を身に付ける期間が初めに3か月間ありましたので、徐々にステップアップできたと感じています。

**満永先生** 獲得できる技術や知識、人的ネットワークで「ICSCoEならではの」と感じることを教えてください。



パネリスト  
東海旅客鉄道株式会社  
八木 晴信さん

**八木さん** 模擬プラントでの攻撃や防御の体験ですね。実際に体験してみると、自社でこれが起きたらどうなるだろうと、冷や汗が出る思いになりました。もし起きたらどうするか、現在自社で足りない部分はどこか、というところが考えられるようになりました。

**中村さん** 技術以外も幅広く学べることですね。例えば、実際の業務では経営層に向けて施策を説明、提案していく

場面があります。カリキュラムの中では、実際に企業の経営に携わってきた方にセキュリティ対策について提案し、フィードバックをもらうような実践的な演習もあり、説明能力を磨くことができました。



パネリスト  
三菱電機株式会社  
中村 俊将さん

**玉田さん** これだけ異なる業界の方が集まって交流する場というのはなかなか無いと思っています。例えば昼休みや放課後にセキュリティ対策について自然と語り合うなど、セキュリティや会社のことをしっかり考えているメンバーとつながることができました。

**満永先生** 「帰社したらこんなことをしたい」という“野望”のようなものはありますか。

**八木さん** 自社では安全の確保を「最大の使命」として位置づけています。安全を確保するための一つの要素としてのセキュリティ対策を社内で広げていきたいと思っています

す。また、自社には既にICSCoE修了者がいるので協力して推進していきたいです。

**中村さん** 事業のIT化やセキュリティ対策を進めていくうえでの経営層へのアピール力の強化が、セキュリティ部門の一つの課題だと思っています。しっかりと取り組んでい



パネリスト  
日本製鉄株式会社  
玉田 耀さん

ることをアピールできる人材になりたいです。

**玉田さん** OT系セキュリティの教育に力を入れていきたいです。制御系の現場において、サイバー攻撃が実は身近にある、という危機感を持ってもらえるような取り組みをしていきたいです。

**満永先生** ICSCoEの特筆すべきところは、他の場所では触れないようなファシリティがあり、それを活用できるカリキュラムや講師が揃っていることにあります。さらに、そこには自社や業界、社会を良くしていこうと頑張っている方々に来てもらっています。私もICSCoEを、人が育ち、つながって社会を良くしていく場にしたいと思っています。

## 修了者パネルディスカッション

第1期から第3期までの修了者3名が、帰社後の取り組みから感じていることなどを紹介しました。

### ■モデレータ

門林 雄基先生 奈良先端科学技術大学院大学

### ■パネリスト

正力 達也さん (第1期修了) 株式会社 オプテージ  
熊谷 拓実さん (第2期修了) ALSOK (総合警備保障株式会社)  
高野 悟さん (第3期修了) 東京ガスiネット株式会社  
※正力さんはリモートでの参加になりました



左から熊谷さん、高野さん、門林先生

**門林先生** 帰社後はどのようなことに取り組んできましたか。

**正力さん** 事業部サイドの立場でセキュリティ監視の強化やルール作りなどに取り組むとともに、過去のインシデント対応を分析しCSIRTの再編に繋げるなど、より大きなテーマにも取り組んできました。

**熊谷さん** サプライチェーンのセキュリティ強化を

テーマとした中小企業の支援事業に参加してきました。そこでICSCoEで学んだITセキュリティの知見を役立ててきました。

**高野さん** グループ会社全体のセキュリティを見る立場で、現場の運用側や業務側のシステムオーナーといった関係者の間に入って意思疎通や、役割分担の調整といったことを担ってきました。

**門林先生** 今後、ICSCoEの修了者が連携しながら目指すべき未来についてどのように考えていますか。

**正力さん** セキュリティが悪者にならない未来を作りたいです。セキュリティ部門は、事業で何か新しい取り組みを始める際に、「それは駄目」「これは難しい」というように禁止の方向で動くことが多いという課題感を持っています。そこで、セキュリティ対策とITのデザインをいかに共存させられるかということに取り組んでいきたいです。そのための情報交換をICSCoEで行っていききたいですね。

**熊谷さん** 今後はさらに重要インフラ事業者側とベンダー側の双方で目的や意図をしっかりと共有できたくてセキュリティ対策が進められるようになるべきと思っています。ICSCoEの中でもインフラ事業者の修了者とベンダーの修了者の更なる連携を強めていきたいです。

**高野さん** 昨今、セキュリティ人材が不足していると言われており、セキュリティ対策はより効率的に進められるべきと考えています。その実現のために修了者コミュニティである「叶会」を活用していきたいです。例えば各社共通の課題があれば、叶会でノウハウを共有することで、コストを掛けずに早く効果的なセキュリティ対策を自社に提供できるようになると考えています。

**門林先生** 帰社後も志は一緒だと思っています。我々も修了者のフォローアップを考えております。今後も産官学のチームワークでICSCoEを大きくし、人脈形成や現場力の向上を継続していくことが重要だと思っています。

# 「経団連 With/Afterコロナにおけるサイバーセキュリティウェビナー」に修了者が登壇

経営トップ層に向けてICSCoE修了者としてのメッセージを発信しました



2021年4月、サイバーセキュリティ対策のさらなる推進を図るべく開催された経団連主催のウェビナーにおいて、ICSCoEからは門林先生をモデレータとして、修了者3名がパネルディスカッションに登壇しました。

その中から「ICSCoE修了者の活かし方」をテーマとしたディスカッションの内容を抜粋して紹介します。



経団連会館にて行われました



住友化学株式会社  
戸村 真悟さん(第3期修了)



中部電力パワーグリッド株式会社  
長谷川 弘幸さん(第2期修了)



JXアイティソリューション株式会社  
米永 雄慶さん(第1期修了)



奈良先端科学技術大学院大学  
門林 雄基先生

## ICSCoE修了者の活かし方

**門林先生** 企業としては修了者をどのように活用していけばよいでしょうか。

**戸村さん** DXの推進において修了者の長を活かせるのではと考えています。DXはセキュリティと一緒に考えながら進めていくことが大切になります。また、社内DX関係者との協働が必要になります。修了者はカリキュラムの中で十分にトレーニングを積んできていますので、関係者の間に入って難解なセキュリティ用語を通訳したり、ビジネスを理解したうえでセキュリティリスクを検討したりといったところで力を発揮できます。

**長谷川さん** 私は「広い」施策に加え、「深い」施策を強化してそれを実現していく、という分野で修了者を活かせると感じています。私自身、ICSCoEで学ぶ前は外部組織との連携を広げたりとか、訓練のバリエーションを増やしたり、領域を「広げる」施策を行っていました。修了後は経営層とのセキュリティリスクに関するコミュニケーションを進めたり、技術施策のリスクを分析して一層の強化をしたり、制

御系システムのリスク理解が進むような訓練シナリオを考えたりと、専門スキルを活かした「深い」施策に取り組むことができています。

**米永さん** 私としては、IT部門長の「作戦参謀」やOT部門との「橋渡し役」などとして修了者を使っていたきたいです。経営層の方でセキュリティの具体的な施策や戦略を立てるのは難しいと思います。まずは私たちに作戦を立てさせて、それを経営層が理解したうえで承認し、現場で実行していく。そしてその結果を私たちがしっかり報告する。そういった情報の流れを組織の中で作っていくと、うまくセキュリティ対策が進んでいきます。

**門林先生** やはり修了者はコロナ禍でも大活躍していただいていると感じます。DX含め、新しいトピックがこれからもどんどん出てきますが、そこでもICSCoEで培った技術や知識、人脈等々は活きるというところですね。